

G Three
G Four
G Five

オペレーティングマニュアル

GENELEC®





概要

Genelec G Three、G Four、G Fiveは高出力がつ音の色付けが極めて少ない、幅広い帯域幅のサウンドを提供するコンパクトな2ウェイアクティブラウドスピーカーです。

ラウドスピーカーの配置

各ラウドスピーカーには、内部アンプユニット、電源ケーブル、オペレーティングマニュアルが付属しています。パッケージを開封したら、ラウドスピーカーを所要のリスニング位置に配置し、リスニングエリアの中央に向かうように置きます。可能であれば、リスニング位置が部屋の中心線上来るように、またラウドスピーカーが部屋の両側の壁から同じ距離になるようにシステムを配置してください。

接続

接続する前に、ラウドスピーカーの電源スイッチと信号ソースが [OFF] に設定されていることを確認してください。ラウドスピーカーの電源スイッチは背面にあります。スピーカーをアースの

ないコンセントに接続したり、アースのない電源ケーブルを使用したりしないでください。

オーディオ入力には 10 kΩ バランスメス XLR コネクターまたは RCA コネクター経由です。プリアンプ、コンピューター、サウンドカード、その他の信号ソースからのラインレベルオーディオ信号のみ接続できます。パワーアンプのスピーカーターミナルからの高出力信号は絶対に接続しないでください。一度に1つのソースのみを使用するのであれば、両方のコネクターを使用して2つのオーディオソースをラウドスピーカーに接続することができます。

接続が完了したら、スピーカーの電源をオンにすることができます。

ISS 自動スタート機能

Genelec G Three、G Four、G Fiveの電源スイッチは背面パネルにあります。ラウドスピーカーを数日間にわたって使用しない場合、またはシステムからのケーブルの接続を解除する場合、このスイッチを [OFF] に設定します。このスイッチが [ON] に設定されている場合、信号を検出する ISS 自動スタート機能により、再生

が開始するとラウドスピーカーの電源がオンになります。再生が終了して1時間が経過すると自動で電源がオフになりスタンバイモードに入ります。スタンバイモード時の電力消費量は0.5ワット未満です。ラウドスピーカーはソースからの入力信号が検出されると自動的にスタートします。

G Threeモデルには、ISS機能の有効と無効を切り替えるのに使用できるスイッチがあります。

再生レベルを設定する

ラウドスピーカーの再生レベルには2種類の基本設定があり、G FourとG Fiveにはノーマルと+10 dB、G Threeには-10 dBがあります。ノーマル設定は出荷時デフォルトで、+10 dBおよび-10 dB設定は背面パネルのスイッチを [ON] にすることで選択できます。この設定は、ラウドスピーカーが適切なボリュームで再生するよう、ラウドスピーカーを信号ソースに合わせて調整するのに使用されます。

電源インジケータ LED をオフにする

電源インジケータ LED は、背面パネルの [LED

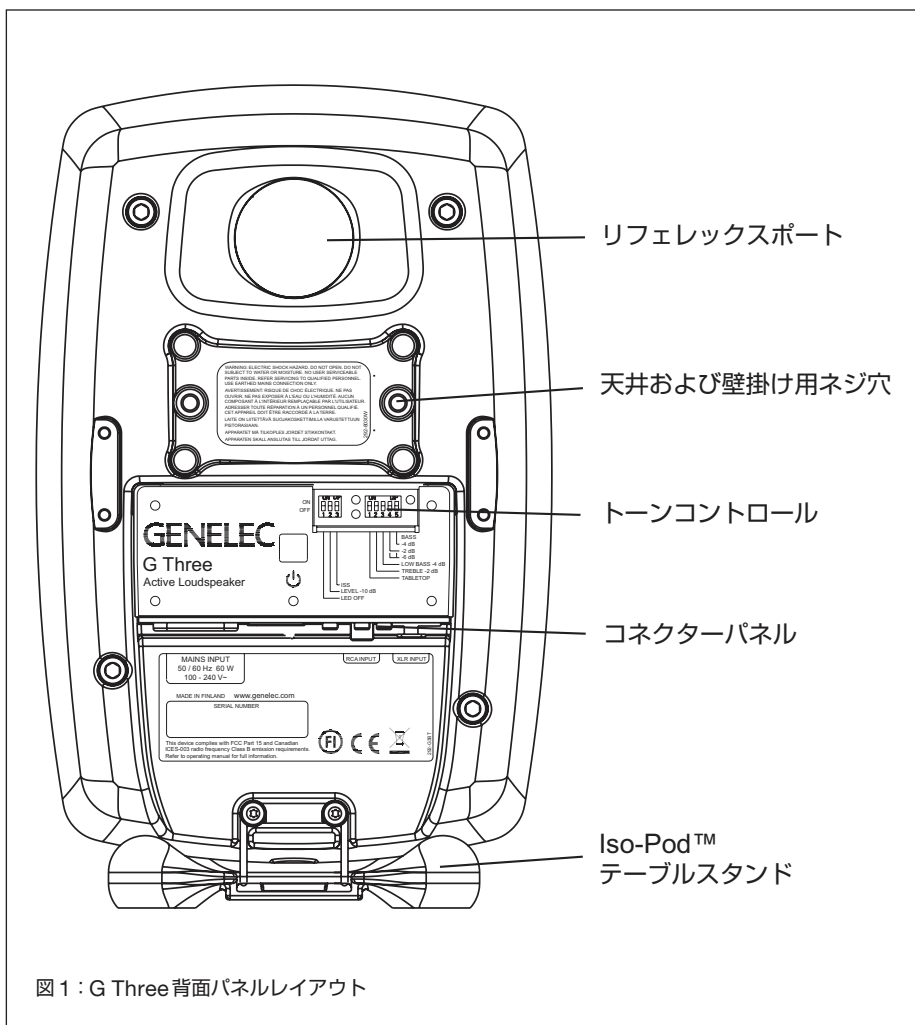


図 1 : G Three 背面パネルレイアウト

るシステムの音をスムーズに下げる -2 dB 設定の 1 種類のみ、G Four および G Five には -2 dB と -4 dB の 2 種類の減衰レベルと +2 dB のブースト設定があります。

Bass

[Bass] コントロールは 1 kHz を下回る低域レスポンスに 3 種類の減衰レベルを提供します。通常、ラウドスピーカーが部屋の境界付近に設定されている場合、または、低音が強くなりすぎるような場合に必要となります。減衰レベルは -2 dB、-4 dB、-6 dB です。G Three では、-6 dB 減衰は両方の [Bass] スイッチを [ON] に設定することで選択できます。

Low Bass

[Low Bass] コントロールはラウドスピーカーの低域再現の最下部での減衰を提供します。これは、超低域の不均衡が強い場合必要になります。G Three には -4 dB 設定の 1 種類のみ、G Four および G Five には -2 dB、-4 dB、-6 dB の 3 種類の減衰レベルがあります。

全てのトーンコントロールのファクトリー設定は「0」で、フラットで無響な周波数特性を提供します。調整は、必ず全てのスイッチを [OFF] 位置に設定してから開始します。設定のさまざまな組み合わせを体系的に計測または試聴して最適な音響バランスを探します。

取付についての検討事項

ラウドスピーカーを正しく配置する

ラウドスピーカーはリスニング位置を向くように配置してください。クロスオーバー周波数周辺のキャンセレーションの問題を最小限に抑えるため、縦向きで使用することをおすすめします。

対称に配置する

ラウドスピーカーが周囲の壁から同じ距離に対称に配置されていることを確認してください。リスニング位置と各ラウドスピーカーの間の距離も同じにします。可能であれば、リスニング位置が部屋の中心線上にあり、かつ中心から少しずれた場所になるようにシステムを配置してください。

反響を最小限に抑える

デスク、キャビネット、棚、コンピューターモニターなど、ラウドスピーカー周辺の物体からの音の反射はサウンドイメージへの不要なぼやけの原因となります。これは、反響面からラウドスピーカーを離して設置することで最小限に抑えることができます。

ラウドスピーカー取付位置	Treble	Bass	Low Bass	Tabletop
フラットな無響レスポンス	なし	なし	なし	なし
湿度の高い室内で自立	なし	-2 dB	なし	なし
反響する室内で自立	なし	-4 dB	なし	なし
テーブルまたはその他の反響面上のリスナーの近く	なし	-2 dB	なし	ON (-4 dB @ 160/200 Hz)
隅に	なし	-4 dB	-4 dB	なし

表 1 : 一般的な状況に対して推奨されるトーンコントロール設定

[OFF] スイッチを [ON] にすることでオフに切り替えることができます。

トーンコントロールを設定する

Genelec G Three、G Four、G Five の周波数特性は、背面のトーンコントロールスイッチを設定することで音響環境に合わせて調整できます。コントロールは [Tabletop]、[Treble]、[Bass]、[Low Bass] です。表 1 は、さまざまな状況での典型的な設定を示しています。図 3、5、7 は、周波数特性へのコントロールの効果を示しています。

Tabletop

ラウドスピーカーがテーブル上やラウドスピーカーとリスナーの間に反響面がある面上に置かれる場合、このスイッチを [ON] にすることをおすすめします。

このような配置の場合、低域の一部分にブーストが生じます。[Tabletop] コントロールは、この不要な意図の色付けを補正します。

Treble

[Treble] 調整では、ラウドスピーカーの高域の周波数特性を調整できます。G Three には明るすぎ

最小隙間

モニターがキャビネットのような閉鎖された空間や壁内部に埋め込む形で取り付けられる場合、アンプが十分に冷却され、レフポートが正しく機能するようにする必要があります。ラウドスピーカーの背後、上、両側には、少なくとも5cmの間隔を空けてください。アンプ周辺の空間では、環境温度が35度を超えないよう換気をするまたは十分な空間を取る必要があります。

取付オプション

G Three、G Four、G Fiveはさまざまな取り付けオプションを提供しています。Iso-Pod™ (Isolation Positioner/Decoupler™) 防振テーブルスタンドを使用すると、リスナーに向けてラウドスピーカーに角度をつけることができ、ラウドスピーカーを垂直方向に正しく配置できます。ラウドスピーカーキャビネットの背面にはIso-Pod™用の3種類の取り付け穴があり、縦置きおよび横置きが可能です。また、ラウドスピーカー底面には、標準的なマイクスタンドに対応する3/8インチUNCネジ穴(G FourおよびG FiveではM10)があります。背面には、Omnimount® およびKönig & Meyerブラケット用のネジ穴が2セットあります。

メンテナンス

アンプユニット内部にオーナー自身で点検修理が可能な部分はありません。保守や修理はGenelec認定サービスのみ実施可能です。

安全性についての検討事項

これらの製品は国際安全基準に準拠するようデザインされていますが、安全な動作を確保し、ラウドスピーカーを安全な動作条件下に保つため、以下の警告と注意を順守する必要があります。

- ・保守および修理を認定サービス以外の者が実施してはいけません。
- ・ラウドスピーカーエンクロージャを解体してはいけません。
- ・アースのない電源ケーブルまたはアースなしの電源接続を用いて本製品を使用してはいけません。人身傷害の原因となることがあります。
- ・ラウドスピーカーを水または湿気に曝さないでください。花ビンなど液体で満たされた物体をラウドスピーカーの上や付近に置かないでください。
- ・このラウドスピーカーは85 dBを上回る音圧レベルを生成できますが、このレベルは聴覚に恒久的な損傷を与える場合があります。

- ・十分な冷却を保つため、ラウドスピーカーの背後で空気が対流している必要があります。ラウドスピーカー周辺の空気の流れを遮らないようにしてください。

- ・アンプは主電源コードがアンプまたは電源コンセントから取り外されていなければAC電源から完全には接続解除されません。

警告！

この装置は85 dBを上回る音圧レベルを生成できますが、このレベルは聴覚に恒久的な損傷を与える場合があります。

FCC規則への準拠

本製品は、FCC規則のパート15に準拠しています。動作は次の条件に基づきます。

- ・本機器が有害な妨害の原因とならないこと、および
- ・本機器が不要な動作の原因となる妨害を含むあらゆる妨害を受信すること。

注：本装置は、テストの結果FCC規則のパート15に従い、クラスBのデジタルデバイスの制限を遵守していることが確認されています。これらの制限は、住宅に設置するにあたり有害な妨害に対する適切な保護を提供することを目的としています。本装置は無線周波エネルギーを発生、使用、放射しており、指示に従わずに設置または使用された場合、無線通信への有害な妨害の原因となる場合があります。ただし、特定の場所に設置することによって妨害が発生しないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信の有害な妨害の原因となる場合は（装置電源をオン・オフすることをご確認いただけます）、以下の対策を1つ以上行って妨害を正すことをおすすめします。

- ・受信アンテナの向きまたは場所を変更する。
- ・装置と受信機の距離をさらに空ける。
- ・受信機が接続されているコンセントとは別のコンセントに装置を接続する。
- ・取扱店または経験豊富なラジオ技術者またはテレビ技術者に相談する。

製造者によって明示的に許可されていない変更を行うと、装置を操作する権限が無効になる場合があります。

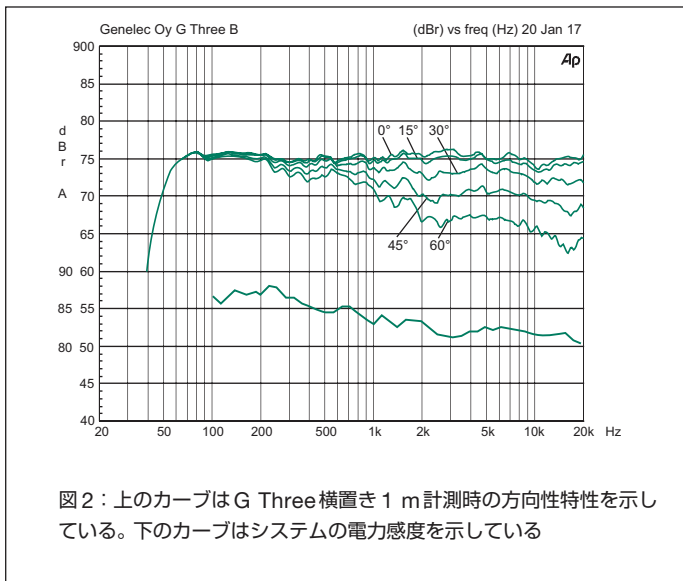


図 2：上のカーブはG Three横置き 1 m 計測時の方向性特性を示している。下のカーブはシステムの電力感度を示している

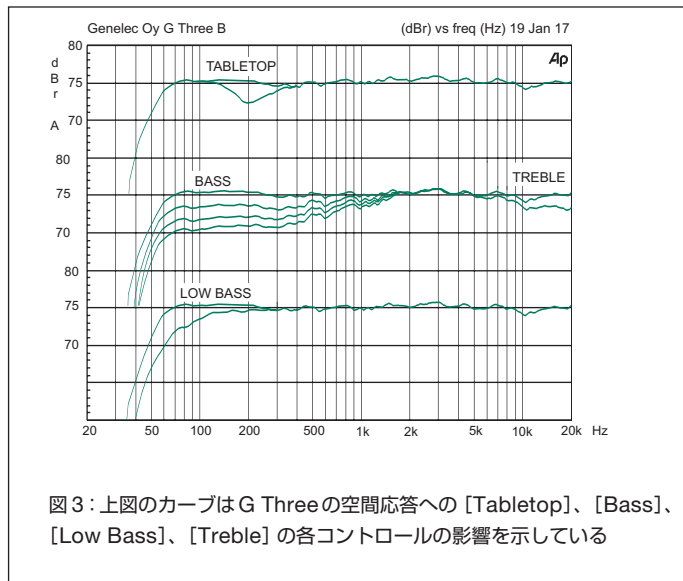


図 3：上図のカーブはG Threeの空間応答への [Tabletop]、[Bass]、[Low Bass]、[Treble] の各コントロールの影響を示している

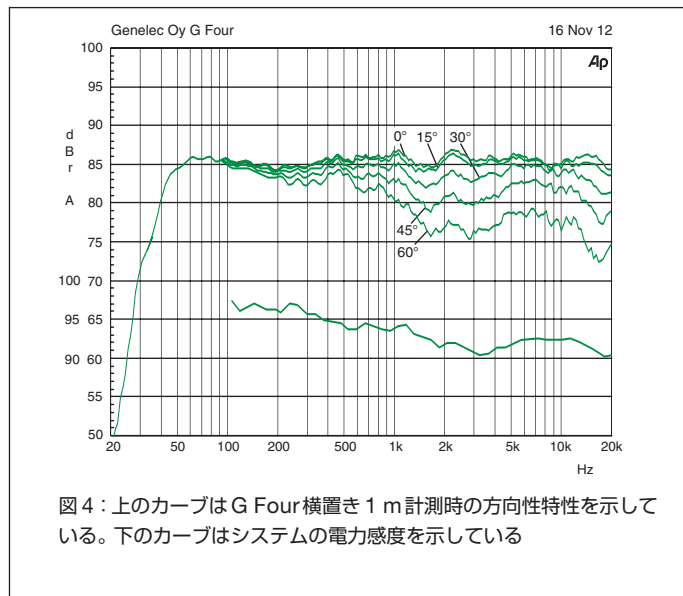


図 4：上のカーブはG Four横置き 1 m 計測時の方向性特性を示している。下のカーブはシステムの電力感度を示している

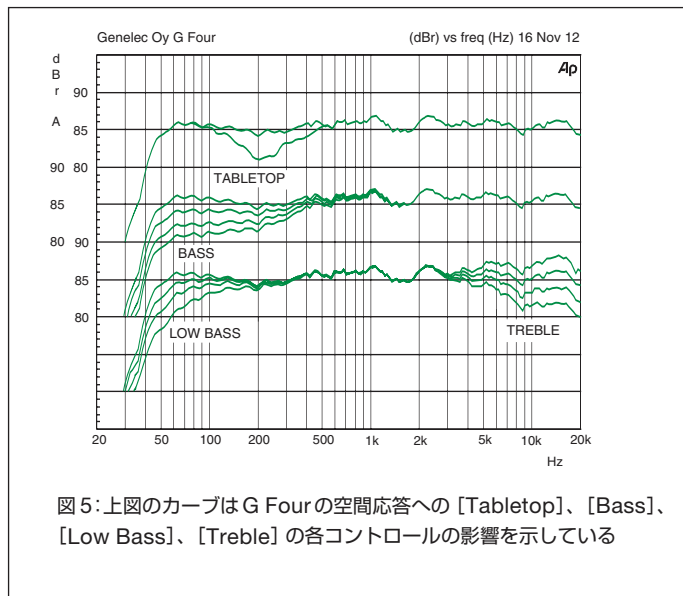


図 5：上図のカーブはG Fourの空間応答への [Tabletop]、[Bass]、[Low Bass]、[Treble] の各コントロールの影響を示している

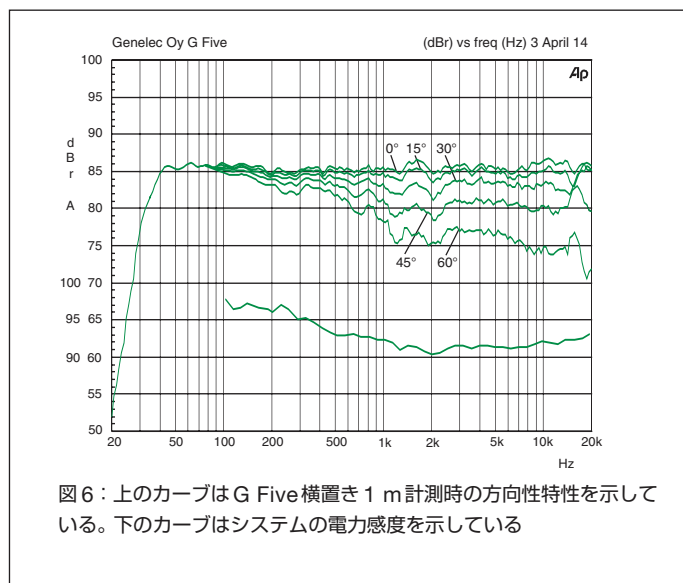


図 6：上のカーブはG Five横置き 1 m 計測時の方向性特性を示している。下のカーブはシステムの電力感度を示している

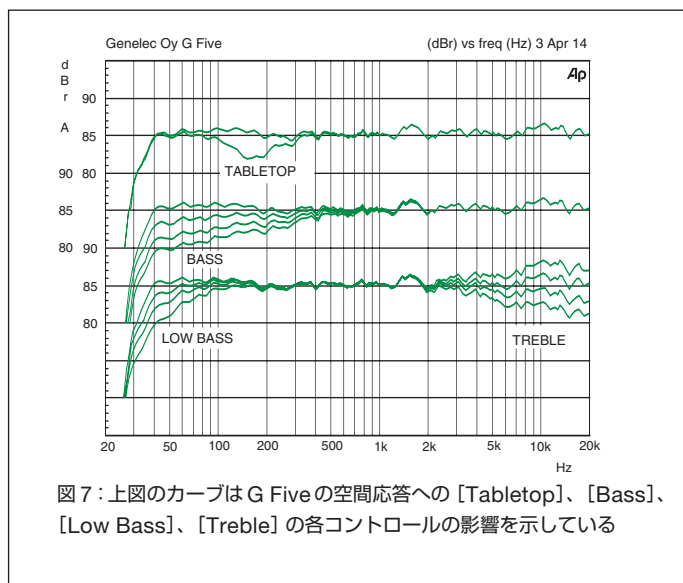


図 7：上図のカーブはG Fiveの空間応答への [Tabletop]、[Bass]、[Low Bass]、[Treble] の各コントロールの影響を示している

システム仕様			
	G Three	G Four	G Five
低域カットオフ周波数、-6 dB 高域カットオフ周波数、-3 dB	≤ 47 Hz ≥ 25 kHz	≤ 41 Hz ≥ 25 kHz	≤ 32 Hz ≥ 25 kHz
システムのフリー空間周波数特性 (± 2.5 dB)	54 Hz ~ 20 kHz	48 Hz ~ 20 kHz	38 Hz ~ 20 kHz
最大音圧レベル (Peak)、軸上、半空間、100 Hz ~ 3 kHz 平均 @ 1 m @ 0.5 m	≥ 104 dB SPL ≥ 110 dB SPL	≥ 105 dB SPL ≥ 111 dB SPL	≥ 110 dB SPL ≥ 116 dB SPL
最大音圧レベル (RMS)、IEC 60268-1 準拠のシミュレートプログラム信号の場合 と同条件 (ドライバユニット保護回路による制限)、@ 1 m	≥ 96 dB SPL	≥ 99 dB SPL	≥ 101 dB SPL
残留ノイズレベル、フリー空間軸上、@ 1 m (A 特性)	≤ 5 dB	≤ 10 dB	≤ 10 dB
高調波歪み、軸上、1 m 50 Hz ~ 100 Hz > 100 Hz	@85 dB SPL < 2 % < 0.5 %	@90 dB SPL < 2 % < 0.5 %	@90 dB SPL < 2 % < 0.5 %
ドライバー： ウーファー ツイーター	130 mm 19 mm メタルドーム	165 mm 19 mm メタルドーム	205 mm 25 mm
質量：	5.0 kg	8.6 kg	12.7 kg
外寸： 高さ (テーブルサポートなし) 高さ (テーブルサポートあり) 幅 奥行き	285 mm 299 mm 189 mm 178 mm	350 mm 365 mm 237 mm 223 mm	433 mm 452 mm 286 mm 278 mm

クロスオーバーセクション			
	G Three	G Four	G Five
入力コネクター XLRメス RCAメス	1 1	1 1	1 1
入力インピーダンス	10 kΩ	10 kΩ	10 kΩ
クロスオーバー周波数、ウーファー/ツイーター	3.0 kHz	3.0 kHz	1.8 kHz
Trebleコントロール動作範囲 (-2 dB 単位)	-2 dB @ 15 Hz	+2 ~ -4 dB @ 15 kHz	+2 ~ -4 dB @ 15 kHz
Tabletop低周波コントロール動作範囲	-4 dB @ 200 Hz	-4 dB @ 200 Hz	-4 dB @ 160 Hz
Low Bassコントロール動作範囲	-4 dB @ 55 Hz	0 ~ -6 dB @ 45 Hz (2 dB 単位)	0 ~ -6 dB @ 35 Hz (2 dB 単位)
Bassコントロール動作範囲 (-2 dB 単位)	0 ~ -6 dB @ 100 Hz	0 ~ -6 dB @ 100 Hz	0 ~ -6 dB @ 100 Hz

アンプセクション			
	G Three	G Four	G Five
ベースアンプ瞬間出力 トレブルアンプ瞬間出力	50 W 50 W	90 W 90 W	150 W 120 W
長時間出力はドライバユニット保護回路により制限			
アンプシステム歪み (通常出力時) THD SMPTE-IM CCIF-IM DIM 100	≤ 0.05 % ≤ 0.05 % ≤ 0.05 % ≤ 0.05 %	≤ 0.05 % ≤ 0.05 % ≤ 0.05 % ≤ 0.05 %	≤ 0.05 % ≤ 0.05 % ≤ 0.05 % ≤ 0.05 %
S/N比、フル出力として ウーファー ツイーター	≥ 100 dB ≥ 100 dB	≥ 100 dB ≥ 100 dB	≥ 100 dB ≥ 100 dB
電圧	100 ~ 240 V AC、50 ~ 60 Hz	100、120、220、230 V (AC 固定、地域により異なる)	
電圧動作範囲	± 10 %	± 10 %	± 10 %
消費電力 スタンバイ 待機 フル出力	< 0.5 W 3 W 60 W	< 0.5 W 10 W 110 W	< 0.5 W 10 W 170 W

製品保証について

この製品には、ユニットの性能に変化を与える可能性のある製造上の過失や不具合に対して、2年の保証期間が付帯します。販売条件および保証条件について詳しくは販売店にお問い合わせください。

www.genelec.jp/customer-service/ よりモニターをご登録ください。
これにより3年の延長保証（トータル5年保証）が受けられます。